

北海道銀杏会 第31回講演会

日時 2018年8月10日(金) 18時30分～20時25分

場所 ホテルサンルート札幌3階 「宗谷」

講師 北海道教育大学教育学部国際地域学科 教授 藤巻 秀樹 様

本日は、北海道教育大学教育学部国際地域学科の藤巻教授を講師にお迎えし、『移民国家』に踏み出す日本」と題してご講演いただきました。

藤巻教授が移民に関心を持たれたのは、日本経済新聞社にお勤めの時代に遡ります。「あいらぶ関西」という企画で、関西の企業や人の国際化に取り組んだ際、アジアの留学生から日本は閉鎖的との意見を聞き、国際化には海外に出ていくだけでなく、受け入れ国としての国際化も必要であると興味を持たれました。また、人口減少問題に取り組んだ際、東北や四国など人口減少が先行する地方の取材を通じ、人手不足を補うために外国人が増えざるを得ない現実を目の当たりにされました。

講演では、外国人が多く居住する大久保や保見団地など多くの地域の写真を交えて、生活風景・ごみ問題等をはじめ実際に住む人々の気持ちにまで入り込んだ臨場感がありました。

藤巻教授は、日本は移民国家に向かっており、今後は外国人を日本社会の一員として受け入れる社会統合政策の確立が急務である。しかしながらその道筋は見えていないと警鐘を鳴らされました。

先生のお話で移民は遠く欧米の国々だけでなく日本でも身近な事となりつつあると感じ、質疑応答も大変活発に盛り上がりました。その中で「労働力とは人なのだ」との言葉が大変印象に残りました。ご講演いただきました藤巻教授と参加された会員の皆様に厚くお礼申し上げます。

〈ご講演の概要〉

1. 日本における現状と課題

(1) 政府見解では日本に移民(※)はいないが、在留外国人は約 250 万人と人口の 1.8%。ヨーロッパ諸国が 10%超であるのに比べるとまだ少ない。

※～国際的な定義では 1 年以上外国で暮らす人。

(2) 従来、専門職以外の外国人は受け入れない政策。しかし、農業、水産、製造業などの人手不足に対応するため、技能実習制度や留学生のアルバイト (28 時間まで認められている) さらには偽装難民申請の悪用で補って来ているのが実態。

(3) 移民政策は行わないとの建前を守るために、技能実習制度などが本来の目的から外れた運用となってしまう。

2. 日本の移民受け入れの歩み

(1) 1980 年代に不法就労の外国人が問題となり、1990 年に日系人の受け入れを決定。

(2) 2000 年頃には、(日系)外国人が多く住む地域で外国人集住都市会議が設立される。同会議を通じ、外国人住民に関わる施策や諸問題への自治体(※)の取り組みが始まる。

※～移民政策は①出入国管理と②社会統合の二本柱で取り組むべき。しかし政府は移民が居ないとの前提に固執し、「社会統合」はなおざりにされている。そのため現場の自治体で対応せざるを得ない。

(3) 本年、政府は経済界や地方のニーズの高まりを受け、単純労働者を受け入れるべく、入管法改正を決定。来年にも、新たな在留資格が設けられる。

3. おわりに

- (1) 事実上の移民政策が開始されることとなったのに、まだ政府は移民でないと言っているのは違和感がある。海外でも、例えばドイツは長らく移民を認めていなかったが、結局は移民国家宣言をするなど後手を踏んでいる。
- (2) 日本で住むこととなった人（＝労働力）にも住み良い社会統合政策を行っていくことが、日本人にも外国人にもより良い未来となる道である。

（文責 渡辺知博）